モデルチェンジ

エアインパクターがモデルチェンジ!強力パルスエアでDPFを清掃。

防塵ケース付きも新ラインナップ!

エアインパクター

AP-500/500Z

- ●軽量・コンパクトでコストパフォーマンスに 優れた移動式DPF清掃機がサイズアップ。 ゴムガード追加でキズと粉塵を防止。
- ●防塵ケース付き仕様(AP-500Z)は 作業時に粉塵が舞い散らず安心・快適。
- ●毎秒60回の強力パルスエアで DPFにつまったアッシュとPMを 確実に除去します。



おすすめ商品

再塗装不要!数秒の作業で、軽微なへこみを補修する

画期的なデントリペアシステム

IHデントリペアシステム T-Hotbox(ホットボックス)

T-Hotbox

- ●IH(誘導加熱)の技術を利用したシステム。 金属面にだけ作用します。
- ●飛び石などでボディーについた小さなへこみが 短時間でキレイに直ります。
- ●へこみのサイズや傷に合わせて、通電時間をセッティング。 塗装を焼かないようくぼみを取り除くので、再塗装は不要。 デントリペアツールと併用すると更に効果的です。



トピックス

買い替え・廃棄の前にご連絡を! ANZENがお使いの整備機器を 下取ります

ANZENでは、買い替えや移転などに伴い廃棄される整備機器の 下取りを行なっています。

古い機器を下取ることで、廃棄・撤去にかかる費用を削減できる うえ、査定額によっては、代替商品のご購入額からお値引きするこ

自動車整備機器であれば、メーカー・機種を問わず無料で査定い たしますので、まずはお気軽にお声がけください。





保守点検のおすすめ

ANZEN製品を長くで活用いただくため、保守点検サービス(有料)ので利用をおすすめします。

24時間サービス体制

ANZEN製品を「安心」してご利用いただくために、24時間サービス(ボイスワープ)対応をいたしております。営業時間外、および 休日におけるサービス電話受付ができます。担当の営業所の電話に連絡していただければできる限り迅速な対応をいたします。

0120-01-6361 当社の製品およびサービス、その他に関するお問い合わせは左記までお気軽にどうぞ。 受付時間:月〜金 (AM9:00~PM5:00) ANZENカスタマーサービス

ANZENホームページ http://www.anzen.co.jp ホームページ "ANZEN Web" ではANZENの最新情報を提供しています。

●発行所/安全自動車株式会社 マーケティング部 東京都港区芝浦4-16-25 ●ANZEN NEWS 67号 (2015年4月1日発行)



自動車整備の最新がわかる **ANZEN NEWS**



CHARGE







第34回 オートサービスショー2015のご案内

「第34回 オートサービスショー 2015」が 6月19日(金)~21日(日)の3日間、東京ビッグサイトで開催されます。

今回のオートサービスショーでは、作業の高効率化や省力化、省スペースに貢献する整備機器をはじめ、 進化する車両に対応する最新技術、そして安全かつ安心して作業を行っていただくための メンテナンスメニューなど、充実の内容を企画しております。皆様のご来場を社員一同、心よりお待ちしております。







整備機器のさらなる進化をぜひご覧ください!

第34回 **オートサービ**スショー2015

平成27年6/19[金]~6/21[日]

東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東4・5・6ホール及び屋外

http://www.jasea.org/autoservice/



株式会社ヤサカ

青森県八戸市沼館4-7-130 Tel 0178-43-4628



■オープン日:2014年10月 大型車用自動車整備工場を新設

■従業員数:40名(うちメカニック30名)

■店舗概要:今回訪問したのは、2014年10月に大型専用の自動車 整備工場を新設した株式会社ヤサカ(以下(株)ヤサカ)。2014年12月 には創業45周年を迎えました。乗用車からトラック、クレーン、特殊車両 に至るまで、あらゆる修理に対応するたしかな技術力を誇る同社は、地 域の同業他社からも頼られる存在でもあります。そんな(株)ヤサカの年 間入庫台数は8,000台。松本社長は、"社員あっての会社"という先代社 長の思いを継承し、メカニックの労働環境の向上や"居心地の良さ"を第 ーに考え、シャワールームや社員食堂に至るまで、最高の設備を整えまし た。そんな社長のこだわりがつまった新工場についてお話を伺いました。





松本 剛典 様





田中 多嘉博 様

株式会社スズキ自販中部 WYNSAKA 車検センター

愛知県瀬戸市山の田町202番4

■オープン日:2015年2月1日(日)新設 ■従業員数:5名(メカニック4名、検査員1名)

■店舗概要:株式会社スズキ自販中部は1967年3月に設立。現在 は23拠点を保有し、総社員数は320名にのぼります。7拠点が指定 工場を保有していますが、同センターも指定工場取得を8月頃に予定 しているため、取得が完了したら全体で8拠点となります。昨秋から 増加傾向にある新車販売に応えるために車検専門の工場を設立。同 センターは5拠点分の車検整備および重整備を受け持つ工場として 設立されました。同社車検センターが入っている建物はスズキの部 品センターも兼ねています。今回は作業者の負担軽減を考えて導入 された最新鋭機器への想いと工場づくりのポイントを伺いました。









あらゆる車種と整備に対応!メカニックへの配慮が行き届いた最新大型整備工場

■メカニックの負担を軽減し、より正確で迅速な サービスを提供できる環境を創出

「メカニックが笑って仕事ができるように、安心して働ける環境づくり を目指しました」と、松本社長は語ります。工場新設にあたっては"メ カニックの働きやすさ"と"作業効率化による稼働率アップ"をとこ とん追求しました。7ストールからなる新工場は、小型から大型ト ラックの作業に適したフルフラットな整備場、検査業務の効率を上 げるデジタル完成検査場、仕上がり面と環境対策に配慮した最新塗 装ブースと、圧巻の設備が揃っています。導入した機器の使い勝手に ついて、田中副工場長にお話を伺いました。

「"ツインパワーリフト"は主に車検とクイック整備に使っています。以 前はガレージジャッキで車体を上げ、ウマをかませて、寝板で滑り込 んで作業するというスタイルでした。結果、整備に着工するまで1時間 程かかっていましたが今では30分に半減しましたね」(田中副工場 長)。また同社は、限られたスペースの中で生産性を向上させるため に2台同時整備もできる4柱式の"ツインパワーリフト"も導入してい ます。"2分割フロアリフト"の使用状況については主にクラッチやミッ ションのオーバーホールやオイル交換に使用しているとのことです。 「2分割の作業フロアが自由に高さを調整できるので便利ですね。場 合によってはお客様もその場で一緒に見てもらうこともあります。 今まではお客様に、下回りの状況を口頭で説明していましたが、その 方が説得力がありますね。"ピットリフト"はタイヤ交換など複合化し た作業につなげていけるので便利です!(田中副工場長)。



小型トラックから大型トラックまで幅広く



地下ピットには必要なツールを収納し、 クイック整備から足回り整備まで幅広く対応

■廃油再循環システムや大型塗装ブースは 環境にも配慮した最新モデルを導入

同工場はLED照明を一部に採用するなど、環境配慮にも力を入れて います。工場から出た廃油を燃料に、"クリーンバーンボイラー"で燃 やし、工場内の床暖房に再利用する廃油再循環システムもその1つで す。寒さが厳しい青森ではつなぎの上に上着を着用して作業を行っ ていますが、田中副工場長は「足元から温かいのでストレスのない快 適な職場環境になっています。真冬でも上着は不要、ツナギ1枚で仕 事ができるので動きやすくていいですね。とにかく強力な暖房シス テムです」と語ってくれました。

大型車用の塗装ブースはプッシュプル型乾燥装置と集塵装置サン ディングシステムを導入。中間部をシャッターで間仕切れる設計なの で、小型車の2台同時塗装も可能な利便性の良い設計となっています。



"TアTレメントクリーナー吸鹿干"の 道入でDPFの室内清掃が可能



入庫車両に応じて使い分けができる大型塗装 ブース。中間シャッターで問什切りが可能

■ヤサカの整備品質を支えるメカニックのたしかな技術力

同社はその高い技術力が評判となり、現存する昭和23年製の消防 車の復元再生を任された実績もあります。職人スタッフ達の丁寧な 作業によって、外装・内装ともに辛うじて形を保っている状態から、 当時の美しいフォルムを蘇らせ、走らせるまでの偉業を成し遂げまし た。10代後半から70代近い社員が同じ職場で汗を流し、ベテランか ら高いレベルの技術力を伝承された若手はやがて先輩として、脈々 と伝統と技術を後輩に伝えていくことでしょう。お客様の要望に応 え、より早く、より安全に、より安心をモットーに、これからも確かな 専門技術と素早い対応力でお客様からたくさんの支持を集めるに 違いありません。





昭和モダンの消防車が職人の手にかかり見事復活!青森県からも表彰されました

作業者の負担軽減とCS向上につなげる充実した機器が揃う車検センター

■他店舗との連携で作業者への負担軽減をサポート

同センターには通常の営業所のようにショールームが存在せず、車 検に特化した専門の工場となっています。クイック作業はショールー ムのある店舗で、時間を要する作業は同センターで実施することに よって効率とCSの向上をはかることが可能です。「お客様の満足は もちろんのこと作業者への負担軽減も重要視しています」(宮澤常 務)。従来、車両を受け入れる5拠点は軽自動車協会および陸運局に 持ち込み車検を行っていました。お客様の車両を自走させて持ち込 むには距離もあったため、5拠点の中心となる位置に同センターを 設けました。車検センターでは「月間100台を目標にしていきたい」 とお話してくださった宮澤常務ですが、指定工場を保有する他店舗 では現在月間100台程度をこなしているところもあります。5拠点 分を受け入れるとなると、予想以上の入庫が見込めるため、100台 を超えることも視野にいれているとのことです。お客様と作業者の ためのサービスが入庫促進につながっていくでしょう。

■最新鋭機器が揃った検査ラインで車両をトータルサポート!

車検ラインには最新鋭の設備機器を導入しました。"トータル車検シ ステムラインマスター"と"車検証QRコードリーダー"は業務をシス テム化し、人的ミスの軽減や時間短縮を考えて導入されました。車検 証のデータをそのまま読み込みできるため作業員の負担軽減に繋が るとの想いから採用されています。"画像処理方式手動ヘッドライト テスター"は「以前より作業効率が上がり時間短縮に繋がった」という 他店舗の評価から導入を決めました。"ハイブリッドテスター"と組み 合わせて使用している軸重3tにまで対応可能な"多軸フリーロー ラー"は移動式ではなく安全性を考慮して埋設式を選択。「雪が降る ことの少ない地域ではありますが、フルタイム4輪駆動車がまったく ないというわけではないため、幅広い車種に対応ができるよう導入



"画像処理方式手動ヘッドライトテスター



高効率機器を揃えた車検ライン

を決めました」(宮澤常務)。車検ラインは最新鋭機器が揃っていると いうこともあり、今後は他店舗への参考にもしていきたいとのことで す。車検を通した車両はすべて "門型洗車機ジスペクト" で洗車しま す。同センターで洗車することによって、車両を拠点に戻してから洗 車をするという工程がなくなり、作業者への負担を軽減することが可 能となります。「現在、求められていることは省力化、時間短縮、労働 力軽減、高効率化ですのでそこを重点的に考えて設備機器を導入し ました」と小久保次長は作業者への想いを語ってくださいました。





■お客様への対応力向上で利益拡大へ貢献

認証工場として現段階は稼動している同センターには、整備や点検 内容によって使い分けられるように "ファンタスリフト" や "アルネオ リフト"が導入されています。また、タイヤの履き替えも多くあるため "ヨーロピアンタイヤチェンジャー HP" やホイールバランサーの "リ ブラック234H"も導入されました。整備業界ではメカニック不足が 大きな問題となっておりますが、その分、省力化や効率化に寄与す る設備を揃えました。また、メカニックの育成についても「新入社員 には車の基礎知識を充分に学んだ上でさらに商品知識をつけても らいたい。最近はお客様の方が車について詳しいことも多いです。 まずは知識をしっかり得ることがメカニックや営業の成長に繋がる ため、人材育成にも注力していきたい」と小久保次長は同センター

の今後の展望を語っていただき ました。お客様へのサービス対応 力が利益拡大にも繋がっていくこ とでしょう。今後、車検集中セン ターとして本格的に稼動する同セ ンターのさらなる活躍に期待がか かります。



は車種によって整備を使い分けます